

ご提案書（抜粋）

〇〇 御中  
〇〇 様

平成 21 年 月 日  
株式会社 環境工房  
代表取締役 河合泰夫

過去に医薬品、工業薬品、健康補助食品の研究室に在籍し、商品の研究開発及びクライアントの要望を取り入れた商品開発及び営業支援をしていた経験から御社へのご提案をいたします。

御社の〇〇（過去〇〇作りとして使用）を利用したビジネスモデルの構築を以下に箇条書きにいたします。

1. 御社の地下水の使用履歴（過去家計図[〇〇の歴史]を遡り、古都の歴史と安全性、飲み水としての明文化書類の検索）
2. 産官学及び新規ビジネスとしての積極行政支援獲得のための方策づくり（食品管理、営業、食品開発技術者雇用による厚生労働省関係の補助金及び技術支援の獲得）
3. なぜ、京都なのか、〇〇（〇〇なのか地の利の検討）
4. 他社とのコラボ（協働）構築、〇〇経営者等の接触、〇〇（〇〇）商工関係者との協議。
5. 他社との差別化 たとえば宮中や都人の〇〇関係者との接触。〇〇だけでなく、〇〇との相性調査、条件だし、最適抽出条件の調査、学術的位置づけ（うまみ成分 テアニン、サポニン等の技術実用新案取得）
6. アンテナショップとしての〇〇への〇〇提供。
7. 商品構成として〇〇と〇〇のセット化
8. 〇〇市・〇〇の商工部、産業部、〇〇とのコラボ（〇〇との相性）
9. 業務分割（〇〇部分は自社で行い、〇〇、〇〇は〇〇商社又は〇〇）
10. 〇〇使用による食中毒回避（出荷時に低温殺菌、〇〇時に中温過熱）
11. 食品管理体制の体系化、〇〇駅周辺への観光スポット（伝承、過去の〇〇作りの道具閲覧）
12. アンテナショップへの人だし及び要望吸い上げ。
13. パッケージング、価格の決定、販売方法等。
14. 〇〇業界との協働研究及び販路の確保（〇〇橋近辺 〇〇店）
15. 産官の取り込み
16. 〇〇のアウトソース化（人の広がりと危機分散）
17. セット商品（定額給付金内で購入できる 仮称くつろぎセット：〇〇、〇〇、〇〇）
18. セット商品のシリーズ化 〇〇に加えて〇〇程度の〇〇2本 〇〇に関してはデポジットにして〇〇市へのリピート動機付けとする。
19. 当然、〇〇は再利用とし、京都議定書にも合致するようにして何らかの支援又は認証を得られるように動く。

以上